

防犯カメラの必要性和未来への提案

米子市立加茂中学校 3年 富岡 春希



皆さんは、自分たちの住む地域に、防犯カメラが設置されていることを知っていますか。日本全体では、国民が利用する公共の場、守らなければならない大切なものがある場所など、様々な所に防犯カメラが設置されています。最近、防犯カメラはプライバシーの侵害だという点から、問題視されるようになりました。

私は、防犯カメラを設置することには賛成です。しかし、防犯カメラより効率的な方法はあるとも考えています。まずは、防犯カメラの良い点、悪い点について考えました。

良い点は、二つあります。一つ目は、安心感が得られるという点です。暗い道、人通りの少ない場所ではとても大きな安心感が得られます。二つ目は、犯罪行為の抑止ができるという点です。多数の人が集まる場所で、人の目だけでは把握しにくくても、カメラがあれば一目で分かります。また、見られているという意識があると、人はあまりうかつな行動をしない、むしろ落ち着いた行動を取ることが多いというデータもあります。私も、ある大型スーパーマーケットに行った時、防犯カメラを見つけ、その後は自分の行動を少し意識するようになったことを覚えています。そういった、誰かに見られているという意識を持つことができる点は、個人個人としても、良いことだと考えています。しかし、この取り組みだけでは、犯罪行為そのものを阻止することはできない—これも事実です。

対して、悪い点は三つあります。一つ目は、初めに書いた通り、プライバシーの侵害です。これについては、プライバシーを気にする人と気にしない人が存在します。気にする人がいることで、設置されていた防犯カメラが取り外されたという例もあります。この問題については、効率・公正な考え方が必要だと思います。二つ目は、カメラに写っている情報を悪用される場合もあるという点です。カード類の暗証番号、盗撮行為、個人情報の流出・拡散などです。この問題への対策は、公共の場で、安易に情報開示・公開をしないことだと考えます。三つ目は、費用の問題です。カメラの情報から犯罪が発覚することを恐れ、防犯カメラを破壊する犯罪者もいます。そのため、破壊されたカメラを買いなおす分の費用もかかり、効率もよくありません。これらの根拠から、防犯カメラは役に立っていますが、あまり良く思っていない人もいるということが分かります。

また、私にはもう一つ考えがあります。それは、地域内、家庭内の連携をよ

り強めるということです。この考えは、少し前の防犯体制が基になっています。防犯カメラが発達する以前は、警備員を雇っていました。しかし、多大な費用がかかることから、防犯カメラを設置することに、方針が転換していったそうです。そこから私は、費用をかけずに安心安全に暮らすには、地域の人の見守り、情報化する現代社会ならではのメディア機器を使った家族とのやりとりをすることで、防犯カメラを設置する場所はかなり減らすことができると考えました。本来地域一帯となって防犯意識を持つことが理想です。しかし、現実ではなかなか上手くはいかないと思います。防犯カメラを信頼しすぎず、個人個人がしっかり自分と、周りの人を守るという意識を持ち続けるだけでも、安心感は全然違うのではないのでしょうか。

しかし、私は14歳です。まだ社会の全てが分かっているわけではないと思います。それに、また自分の考えが変わらないとは言い切れません。防犯カメラの用途は、安心安全に人が暮らすためです。思い出した時に、今自分は地域と連携できているだろうか、自分の身を守るにはどうしたら良いだろうか、考えなおすことが、本当の安心安全な暮らしにつながると思います。

今一度、考えなおしてみませんか。